

海外安全対策情報（2022年10月～12月）

在バルセロナ日本国総領事館

1 社会・治安情勢

2022年10月から12月までの間に、特筆すべき社会・治安情勢は把握していない。

2 治安動向

(1) 全体

スペイン内務省の発表によれば、2022年1月から9月までの累計刑法犯認知件数は国内全体で、173万4、625件であり、コロナ禍以前の2019年同時期と比較して5.5%の増加となった。

ただし、このうちインターネット詐欺などのいわゆる「サイバー犯罪」を除いた一般（従来型）刑法犯の認知件数を上記同時期と比較した場合、2022年の認知件数は2019年の0.8%減となっており、犯罪認知件数の中でサイバー犯罪の占める割合が非常に大きいことを示している（下記（3）参照。）

(2) スリ、強盗（屋内／屋外）

邦人被害が多い、スリ、強盗については、2022年1月から9月までの累計認知件数は、2019年同時期と比較すると、スリ：-9.7%、強盗（屋内及び屋外）：-15.9%となっており、コロナ禍以前よりも低い水準にある。

ただし、コロナ関連の規制緩和や人の往来の回復に伴い、犯罪認知件数は確実に上昇傾向にあり、今後も時間の経過とともに認知件数は上昇していくものと考えられる。

なお、スリについては、国内全体の認知件数のうち、**カタルーニャ州での発生が約25.2%、バルセロナでの発生が約12パーセントを占めている。**

(3) サイバー（インターネット）犯罪の急増

一般犯罪がパンデミック前と比較して減少傾向にある一方、サイバー犯罪（インターネット犯罪）の発生件数が急激な伸びを示しており、当局は注意を促している。

2022年1月から9月までのサイバー犯罪の累計発生件数は、スペイン国内全体で2019年同時期と比較して約9割増にまで増加しており、中でも最も発生の多いインターネット詐欺は5年前と比較して455%増と深刻な状況である。

オンラインショッピングは信用のおけるサイトから購入する、インターネット上で安易に個人情報のやり取りをしないなど注意が必要である。

(4) 各州及びバルセロナ市の、2022年1月から9月の犯罪発生状況は、以下のとおり。(スペイン内務省発表。増減率は前年同時期との比較)

●カタルーニャ州の犯罪発生状況 (2022年1月～9月)

	殺人	殺人未遂	傷害	誘拐	性犯罪	強盗	侵入窃盗	すり・置き引き	自動車盗
2022年	39件	154件	3,070件	7件	2,839件	18,513件	20,469件	120,531件	5,366件
増減率	-2.5%	-2.5%	36.4%	-22.2%	15.5%	26.8%	27.2%	43.7%	23.7%

●バルセロナ市の犯罪発生状況 (2022年1月～9月)

	殺人	殺人未遂	傷害	誘拐	性犯罪	強盗	侵入窃盗	すり・置き引き	自動車盗
2022年	8件	26件	742件	1件	791件	9,641件	4,830件	58,633件	2,072件
増減率	166.7%	-3.7%	59.6%	-50.0%	20.2%	30.7%	24.5%	58.0%	18.9%

●バレンシア州の犯罪発生状況 (2022年1月～9月)

	殺人	殺人未遂	傷害	誘拐	性犯罪	強盗	侵入窃盗	すり・置き引き	自動車盗
2022年	32件	86件	2,507件	9件	1,874件	4,220件	13,048件	53,326件	2,345件
増減率	45.5%	0.0%	47.2%	125.0%	15.6%	31.7%	13.5%	26.8%	28.2%

●バレアレス州の犯罪発生状況 (2022年1月～9月)

	殺人	殺人未遂	傷害	誘拐	性犯罪	強盗	侵入窃盗	すり・置き引き	自動車盗
2022年	3件	29件	1,023件	3件	736件	1,019件	2,150件	19,964件	1,157件
増減率	-40.0%	-3.3%	85.3%	-25.0%	25.2%	56.3%	12.9%	57.7%	43.9%

(4) 邦人被害発生状況

ア 2022年10月から12月までの間、当館で認知した邦人被害に係る各種犯罪の合計は11件であった。

イ 事案別では、すり・置き引きが計10件で被害のほとんどを占めている。

ウ 置き引きは、レストラン、カフェ、空港での発生が多い。椅子の下などに荷物を置いて、気づかないうちに盗難に遭うケースが散見される。たとえ足元であっても、手荷物は常に目に届く場所に置き、身体から離さないことが重要である。

エ 高速道路等を走行中に、「タイヤがパンクしている」と車両から声をかけて路肩に停車させたうえ、一緒にタイヤを点検する風を装って運転者を車外に連れ出し、その間に他の者が車内の荷物などを窃取する「パンク盗」の被害が報告されている。車両を停止させる際は路肩ではなく、サービスエリアなど他の人通りのある場所を選定する、たとえ短時間であっても無施錠のまま車両を離れないなどの注意が必要である。

3 最近の邦人の被害事案

(1) 強盗

・路上を歩いていたところ、若者グループに暴行を加えられ、所持品を強取され

た。

・旧市街を歩いていたところ、突然男性に引きずり倒された上、所持品を強取された。

(2) ひったくり

・路上を歩いていたところ、所持品をひったくられた。

(3) 置き引き

・ホテルでのチェックイン手続き中や飲食店での飲食中に、足下や座席に置いていた所持品を盗まれた。

(4) すり

・交通機関での移動中や買い物中、気が付かないうちに所持品から貴重品類が抜き取られていた。

・路上を歩いていたところ、数人の男性に服が汚れていると声をかけられ、汚れを拭き取っている際に、地面に置いていたバックを盗まれた。

(5) パンク盗・車上ねらい

・高速道路で走行中や観光地周辺、空港において、タイヤがパンクしていることを指摘され車両を停車し確認のため降車している隙に、車内から貴重品が盗まれた。

・市内の地下駐車場に車両を駐車していたところ、車内が荒らされ旅券や貴重品が盗まれた。

(6) カード盗難・不正利用

・空港内において「搭乗に必要な手続きをするのに、カード決済しかできず困っている。現金を渡すのであなたのカードで決済してもらえないか」等と声をかけられ、被害者が決済手続きをする間にカードをすり替えて窃まれた。またはカード情報を盗まれ不正利用された。

4 テロ・爆弾事件発生状況

(1) 2022年10月から12月までの間に日系企業、団体を対象とした事案の発生はなし。

(2) スペイン内務省は、テロ警戒レベルを「レベル4（高い脅威）」（全5段階）を維持しており、治安当局によるテロ対策が強化されている

(3) 2022年11月末から12月初旬にかけて、スペイン国内に所在するウクライナ大使館及び同国総領事館、スペイン政府関連施設等に対して、爆発物が送付される事案が連続発生し、ウクライナ大使館に送付された爆発物により負傷者が発生した。本件については、2023年1月に当局が被疑者を逮捕しており、大規模テロに発展する可能性は低いものの、今後、同種事案の発生も予想されることから注意が必要である。

(4) スペインにおけるテロ情勢詳細については、以下リンク（「スペインにおけるテロ・誘拐情勢」）参照。

https://www.anzen.mofa.go.jp/info/pcterror_161.html

5 誘拐・脅迫事案

2022年10月から12月までの間に邦人被害の事件は認知していない。

6 日本企業の安全対策に対する諸問題

2022年10月から12月までの間に日本企業を対象とした各種事件や安全対策に対する諸問題は認知していないが、上記4（3）記載のとおり、一連の爆発物送付事件に関連し、模倣犯が発生する可能性もあることから、不審な郵便物等については安易に開封しないなどの注意が必要である。